

日本地衣学会 No.36

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

| | |
|-------------------------------|-----|
| 目次 雑記..... | 123 |
| 韓国「地衣学」事情 / 原田 浩..... | 123 |
| 雲南地衣類調査行2003(その3) / 原田 浩..... | 125 |

雑記 Miscellanea

韓国「地衣学」事情

2004年3月、韓国南部のスンチョン(順天)大学とソウル郊外の国立森林博物館で、地衣類に関する講演をする機会があったので、報告する。

* * *

スンチョン大学の Hur Jae-Seoun さんは、本格的に地衣類の研究を始められ、昨年7月には千葉県立中央博物館に滞在され、地衣類の分類・同定法等について勉強されていった。昨年の本会大会にも出席された。彼の研究室では、とても勉強熱心な学生が在籍し、それぞれが地衣類を様々な角度から研究する体制が整いつつある。また、彼は学内の他学部のスタッフらとともに、韓国地衣類研究所 KoLRI (Korean Lichen Research Institute) なるものを国の補助を得て立ち上げたところである。周囲の方々に地衣類について知ってもらうために私を呼んだということのようだ。更に(偶然ではないのだが)、昨年の大会のシンポジウムでスピーカ

ーだった、中国科学院昆明植物研究所の王立松(Wang Li-Song)さん(以下、Wang さん)がスンチョン大学にこの3月から留学していて(他学部所属なのだが)、Hur 氏の研究室で研究に励んでいる。そこで、原田とWang さんが演者となった。Wang さんは地衣類だけでなく、雲南の植物に詳しいので、その紹介をすることになった。3月22日、スンチョン大学の一室での以下のような講演となった：



図1. KoLRI のメンバー等と、スンチョン大学の講演会場にて。



図 2 . チリ山の溪谷で見た淡水生アナイボゴケ属 . 水没している箇所黒いシミ (矢印) とその左手の褐色のシミ (矢印) は別種と思われる .

Harada H.: Lichens
—Diversity and
Identity—.
Wang L.-S.: Yunnan
flora and Kunming
Institute of Botany,
Chinese Academy of
Sciences.

その晩は、KoLRI のメン
バーとの宴会になった
ことは言うまでもない。
なんでもスンチョンは韓
国では食べ物おいしい
ことで有名などころなの
だそう。様々な魚類
にお目にかかった。その
晩の最大の話はもちろ
ん地衣類だったが、宴に

現れたホヤもなかなか健闘した。

さてスンチョンでは KoLRI に関係する様々な施設
の見学や体験をさせていただいた。これについては、後
日、Hur 氏に報告していただくこととして、ここでは
短時間ではあるが訪れた山と海岸を紹介しておこう。

* * *

Hur さんと Wang さんとともに、スンチョンから 1
時間ちょっとのところにあるチリ山を訪れた。その山域
は広大な国立公園であるが、その麓に観光地化している
寺があり、その周囲を散策した。コナラ属などの落葉広
葉樹が主体の林が続く。花崗岩が広く露出し、溪谷も美
しい。大型地衣類はあまり見られなかったが、溪流の近
くで淡水生のアナイボゴケ属を見つけた (図 2) 。

再びスンチョンに戻り昼食を済ませた後、今度は南東
側にあるイエオス市の海岸を訪れた。干潟も見られ、海
の幸に恵まれていることが伺える。岩礁海岸の一角を散
策。ちょうど干潮時で潮間帯を覗くことができた。様々
な海藻が生える岩の上に、海岸生のアナイボゴケ属をか
らうじてみつけることができた (図 3) 。更に飛沫帯で



図 3 . イエオス市の海岸の潮間帯 . 矢印のあたりに
海岸生アナイボゴケ属が見つかった .



図 4 . 国立標本館外観 .

多くの痂状地衣を観察した .

韓国 (西海岸だと思いが) では干満の差がとても大きいのだという . 丹念に探せば , アナイボゴケが優占する黒色帯 , ダイダイゴケ属が優占する橙色帯のきれいな帯状分布が見られそうだ .

* * *

ソウル郊外に広大な韓国国立樹木園がある . その一部は一般に開放されていて , 一角に森林博物館がある . 3月 23 日 , その一室で以下の講演をした .

Harada H.: Lichen Diversity Study and Herbarium

Wang L.-S.: Yunnan flora and Kunming Institute of Botany, Chinese Academy of Sciences

ここに , とても立派な国立植物標本館 (図 4) ができて間もないのだという . 今のところ維管束植物がメインで地衣類は対象外だが , ゆくゆくは地衣類標本庫も確立していただきたいと期待する .

* * *

翌日は , Hur さん , Wang さんとともに李王朝跡と国立民族博物館を訪れた . そのときの記念写真を今見ると , 韓国を中央に , 東に日本 , 西に中国という地理的位置関係とは逆に , 東から Wang さん , Hur さん , 原田の順だった . この東アジアの地衣屋トリオが , さて ,



図 5 . 東アジアの地衣屋トリオ . 左から著者 (日本) , Hur さん (韓国) , Wang さん (中国) .

10 年後にどのようになっていることやら .

Hur さんは今年 7 月も千葉県立中央博物館に滞在することになっている . その際 , 地衣学会大会にも参加予定である . できれば観察会にも参加したいと希望されている . 去年の玉原高原がとても好印象だったようだ . 日韓友好のため , 世話役である地域活性化委員会に期待しよう .

(原田 浩 : 千葉県立中央博物館)

雲南地衣類調査行 2003 (その 3)

今回は老君山の話の予定だったが , スペースの都合上 , 別のお話をしたい .

* * *

9 月 15 日 . 今日は老君山に行く予定 . 剣川という町で目覚めたその朝は , ホテルの正面の商店で良いものを見つけた (図 1) . 「老龍皮」と「樹花」だ . 「老龍皮」は , ナメラカブトゴケ *Lobaria orientalis* などのカブトゴケ属 . 葉状の地衣体が網目状にでこぼこしている様子から , 龍の皮を連想するのだろう . 「樹花」はカラタ



図 1. 剣川のホテル前の店で地衣類を売っていた。Wang さんが手に取っているのは老龍皮。

チゴケ *Ramalina conduplicans* やヒロハカラタチゴケ *R. sinensis* など、薄黄色の細かに枝分かれした樹状の地衣体が木の幹や枝に生える様子を、花に例えた名だ。「老龍皮」「樹花」とも、食用として売っている。いずれも雲南のある地方では伝統的に食されているのだが、最近の自然食ブームの影響もあるのだとか。

これらの地衣類の雲南での利用等については以下の

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター
とも、投稿先は：

原田 浩・〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館・Fax 043-266-2481.
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩：編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌31号110ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 31, p. 110 of this publication.

文献を参照されたい：

Wang L.-S., Narui T., Harada H., Culberson C.F. & Culberson W.L. 2001. Ethnic uses of lichens in Yunnan, China. *Bryologist* 104(3): 345-349.

* * *

次回こそは老君山の予定。(つづく)

学会連絡先は：

山本好和(庶務幹事)

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科
Tel 018-872-1646 Fax 018-872-1678
E-mail: yyamamoto@akita-pu.ac.jp

日本地衣学会ニュースレター 36号

発行日：2004年 4月10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内